

法と経済学研究

2020年度

麻生良文

講義計画

- [9/14] イントロダクション, ミクロ経済学の基礎(1)
- [9/21] ミクロ経済学の基礎 (2)
- [9/28, 10/05] 外部性とコースの定理 (2回)
- [10/12] 所有権の経済分析
- [10/19, 26] 知的財産権の経済分析 (2回)
- [11/09, 16] 契約法の経済分析 (2回)
- [11/30, 12/07, 14] 不法行為の経済分析 (3回)
- [12/21] 刑法の経済分析
- [1/18, 25] 原子力事故の損害補償 (論文を指定して報告させます)

参考文献

- Robert D. Cooter and Thomas S. Ullen, Law and Economics(5th ed.), Pearson Education , 2007
(邦訳) クーター, ユーレン『法と経済学』, 大田勝造(訳), 商事法務, 1990年 (2nd ed.の翻訳)
- Thomas J. Miceli, Economics of the Law, Oxford Univ. Press, 1997
- スティーブン・シャベル『法と経済学』日本経済新聞社, 2010年
- 麻生良文『公共経済学』有斐閣, 1998年
- 麻生良文『ミクロ経済学入門』ミネルヴァ書房, 2012年
- 矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店

講義ノ一卜

- <http://www.law.keio.ac.jp/~aso/>
- e-mail : aso@law.keio.ac.jp

イントロダクション

法と経済学

- 法律の根拠，あり方を経済学的に分析

考え方，特徴

- 当事者の合理的行動を前提にしたモデルで分析
- ミクロ経済学の応用
 - 外部性，コースの定理が重要
- 法律・制度が当事者のインセンティブをどう変えるか
- 効率性（社会的費用最小化）を実現するためにはどのような法律・制度が望ましいか

講義の概要

以下は，講義の概要

- ミクロ経済の基礎
 - 価格メカニズムの役割
 - 消費者余剰，生産者余剰
 - 市場の失敗と政府の役割
 - 公共財，外部性，独占，情報の非対称性
- 外部性とコースの定理
 - 外部性
 - コースの定理
 - コースの定理の含意

所有権，知的財産権の経済分析

- 所有権の意義
- 所有権の設定
 - 社会的費用の最小化
 - 取引費用
- 所有権の対象
 - 公共財と私的財
- 知的財産権
 - 発明・発見→公共財
 - 事後的には無料で使用させた方が望ましい
 - しかし，そうすると開発者は開発費用を回収できない
 - 開発のインセンティブと効率性のトレードオフ
 - 最適な特許期間は？

契約法の経済分析

- 契約違反
 - 損害賠償の計算方法
 - 救済方法の種類
- 契約違反の救済方法と予防行動
 - 効率的な救済方法
 - 一方向モデル
 - 双方向モデル

不法行為の経済分析

- 不法行為とは
- 基本的な事故モデル（1方向モデル）
 - 損害賠償
 - 最適な予防行動
 - 過失責任
- 双方向モデル
 - 責任ルールの形態
 - 運営費用
- 応用
 - 交通事故， 医療ミス， 製造物責任法

刑法の経済分析

- 合理的犯罪のモデル
- 最適抑止と効率的な刑罰
- 麻薬
- 刑法の伝統的な理論

都市・環境問題

- 都市景観の規制
 - 外部性の問題
 - 景観の所有権とコースの定理
 - 土地利用規制
 - 土地税制
 - 公共事業の土地収用問題
- 2020年度はこの問題は講義せず